

# 平成29年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

## 1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。措置施設として社会的役割を果たせるように努める。

## 2. <長期目標>

- ①ゲストに安心・安全・清潔・安らぎのある環境を提供する
- ②職員は法令を順守し、人としての尊厳を守り、敬愛の念をもって行動する

## 3. <中期目標>

職員が安心して前向きに働くことのできる環境と、一人一人が主体性をもって仕事に取り組める職員集団を目指す。

## 4. <施設年度目標>

### ①遠藤メソッドを推進していく（3ケ年計画の内の2年目）

介護技術標準書の作成は研修内容に沿いながら順調に仕上がってきている。まだまだ数は足りていないが、来年度中には事故に繋がるような課題分は仕上げていきたい。守ることを決め教育するという目標においては、職員全体の共有までは図れていない。周知徹底させ、守れるようにしていきたい。パトロールも順調に実施できており、改善に向けて取り組んでいる。

### ②リスクマネジメントにおいて組織的に管理する

共有に関する自己チェックシートは（1回/2ヶ月）実施できている。正解率も次第に高くなってきている。開始直後は正解率50%ほどであったが、間違いを修正し再提出することで、最終的には全体正解率が82%まで上がってきた。ルールブックの作成も進み、14項目までできている。今後も生かせるようにしていきたい。統一した記録に関しては、記録する練習を実施し、各自個別で指導にあたっている。次年度も継続して実施していく。

## ★大慈吉祥園利用者数（定員70名）（女性52名 男性18名） 平成30年3月31日現在

年 性	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～ 104	合計
女	1	4	6	12	9	15	5	0	52名
男	1	2	6	2	4	3	0	0	18名
合計	2	6	12	14	13	18	5	0	70名

最高年齢	男93歳 女99歳	最年少	男69歳 女69歳	平均年齢	85歳 1ヶ月
------	--------------	-----	--------------	------	---------

## 5. <栄養科>

- ①調理の味と質の安定を図る（3ケ年）

## ②毎日笑顔になれる食事の提供

検食は栄養士と調理師で意見を交換しながら行え、また、メニューの改善も随時行えた。しかし、献立マニュアル作成のための資料の収集は、調理師の協力があり集まりつつあるが十分ではないため、献立マニュアルの作成が行えなかった。次年度は引き続き収集を行うだけでなく、マニュアルの構成も考え作成に至りたい。

リクエストメニューを導入し事前にゲストから意見を伺ったことで、お好きなメニューを誕生日の月に提供できた。ゲストの好きなメニューを把握できるようになり、また、提供時に手作りのメッセージカードをお渡しすることで、コミュニケーションのきっかけ作りができた。次年度はリクエストメニューという形で実施しないが、随時、聞き取りを行い献立に反映させていきたい。バイキングでは、たくさん食べたいというゲストのニーズに応えた食事、且つ、南国風など過去に実践したことのない食事を提供し、ゲストの満足度向上に繋がったと考える。

### <行事食>

日付	行事名
4月	花見、ランチプレート
5月	母の日、ランチプレート
6月	父の日、パンバイキング
7月	七夕、かき氷バイキング、いい肉の日
8月	夏祭り、南国風バイキング
9月	敬老の日、和洋中バイキング
10月	土鍋バイキング、間食かぼちゃプリン
11月	焼き芋大会、吉祥祭、刺身の日、イタリアンバイキング
12月	クリスマス会、あったかおでん
1月	おせち、間食ぜんざい
2月	節分、間食チョコプリン
3月	雛祭り、刺身の日、子ども参観

## 6. <<看護部>>

### <目標>

園での生活が心地よいと思えるヒューマンケアリングを展開する

- ①フィジカルアセスメントを行い、健康問題を把握することで適切で安全な看護を提供する
- ②メンタル面の健康障害に着目し、適切なメンタルヘルスケアを提供する

事業目標の安全なサービスについては、現場職員と情報共有が定着してきていると考える。また、ご家族への報告などについて、面会時にフロア担当看護師から状態報告することで共有が図れている。状況変化があった際はスムーズな対応が行えており、看取りケアについても多職種間での連絡調整を行い、ケアの向上に反映させることができた。必要な医療的ケアについては、食事・水分などのアセスメントを行い、現場職員に日々の状態を確認することで共有した。しかし、皮膚トラブルに関して、状態に応じて軟膏の種類の違いがあるため、外部受診が必要になったことが残念である。今後は早期判断することで早期軽減ができるように努めたい。ゲストの健診業務に関しては、事故もなく実施することができた。外部健診についても、連携調整することで予定通り実施できた。今後もフロア業務との兼務が必要であるため、それぞれの業務に支障がないよう遂行していきたい。

## 7. <<理学療法科>>

- ①日常生活リハビリの充実
- ②緩和治療の充実

日常生活リハビリを実施する上での職員への提言などは、現場職員の知識と意識の向上が前年度より見受けられてきており、今年度は色々な取り組みを現場自身で図ることができていた。退院後の初期時の対応（軽微な運動）・運動部位への影響などの相談→説明→指示・指導のみ、専門分野から提言したのみで、問題なく実施を図れた。また、今年度後半頃より、前年度全く手付かずであった隠れ慢性疾患を持つゲストの抽出・緩和治療の実施を数名ではあるが選出でき、実施に至っている。

8. <入浴>

曜日	昼入浴	夜間入浴
月・火・水・金・土・日	15:30～17:00	18:45～21:00
火・金（男性・女性）	9:30～11:45 13:30～15:00	

9. <職員会議等>

頻度	会議名		
月1回	法人運営会議	処遇会議	主任会議
	職員会議	各担当係会議	会計会議
随時	ケアカンファレンス	医務部会	事務部会

各委員会の活動については、弥勒園に準ずる。吉祥園が独自で実施している会議に関して職員会議（第1木曜日の10時）、処遇会議（第3月曜日18:15）と固定し実施した。各担当係会議は係の職員で日程調整しながら効率よく実施できた。其々の係がゲストの状態や今後の対応などを話し合い、全体会議で報告・共有させた。職員会議では行事・連絡事項・各係担当者からの報告など、主に共有すべき事柄に絞り、処遇会議に関してはゲストの処遇、看取りケア、職員への研修などを行った。

10. <クラブ活動>

行事名	頻度	人数	講師等	行事名	頻度	人数	講師等
レクリエーション	毎日（グループ毎）	5～10名	職員	テーブルカラオケ	週2回	20名	職員
シルバー体操	月8回（月・水曜日）2部分け	40名	村越先生 浦波先生	ラジオ体操 嚙下体操	毎日 日2回	全ゲスト	職員
華道	月2回（隔週）	10名	段先生	ニコニコツアー	週1回	3名	職員
絵手紙	月1回	20名	シルバーカレッジ	麻雀	随時	7名	職員
ビデオ観賞会	第2・4土曜日	20名	職員	学習療法	随時	4名	職員
書道	月1回	10名	下村先生	大正琴	月1回	5名	職員
園芸療法	月1回	6名	外部講師	買物ツアー	週1回	8名	職員
生活リハビリ	毎日（個別毎）	5名	職員				

クラブ活動に関して、予定通り計画・実行することができた。美味しい行事食や職員の出し物は、ゲストにとって大きな楽しみの一つになっている。「ありがとう、楽しかった」

とゲストの一言が職員のやりがいに繋がっている。また、クラブ活動、レクリエーション、学習療法、園芸療法なども滞りなく実施できた。学習療法は、前年度よりかなり回数を増やし、華道も参加されるゲストを増やすことができた。次年度は、普段のレクリエーションを充実させていきたい。

### 1.1. <<年間行事>>

月	年間行事名	月	年間行事名
4月	お花見(園内)、ボーイスカウト慰問、餅つき	10月	プチ旅行(美味しいもん食べよう旅行) 一泊旅行(関西圏)
5月	母の日お祝い会	11月	保育園交流会招待 吉祥園文化祭
6月	ろうごの日、外食ツアー(回転寿司)、父の日お祝い会	12月	つぐみ保育園慰問、クリスマス会、イルミネーション巡り
7月	七夕	1月	正月遊び、書初め、初詣(諏訪神社)、新年会
8月	神戸花火大会、夏祭り(地藏盆)、夏祭り(吉祥園)、盆供養	2月	節分、バレンタインデー(おやつ)
9月	大慈園秋祭り、保育園慰問、敬老の日お祝い会(喜寿・米寿)、秋の彼岸法要、にこにこ園お月見会	3月	雛祭り、ホワイトデー(おやつ)、春の彼岸法要

### 1.2. <<毎月の行事>>

定例行事
誕生者会食(第3木曜日)、お誕生日会(第3月曜日)、スナックたぬき(第3土曜日)、お好み焼(第2・4日曜日)、健康チェック(体重・血圧測定)(中旬)、買物ツアー・にこにこツアー(毎週月曜日)、料理作り(各1回/月)、バイキング(1回/月)、理髪(第2月曜日)、学習療法(3回/週)、園芸療法(第2日曜日)、月命日(第4月曜日)、ビデオ観賞会(第2・4土曜日)

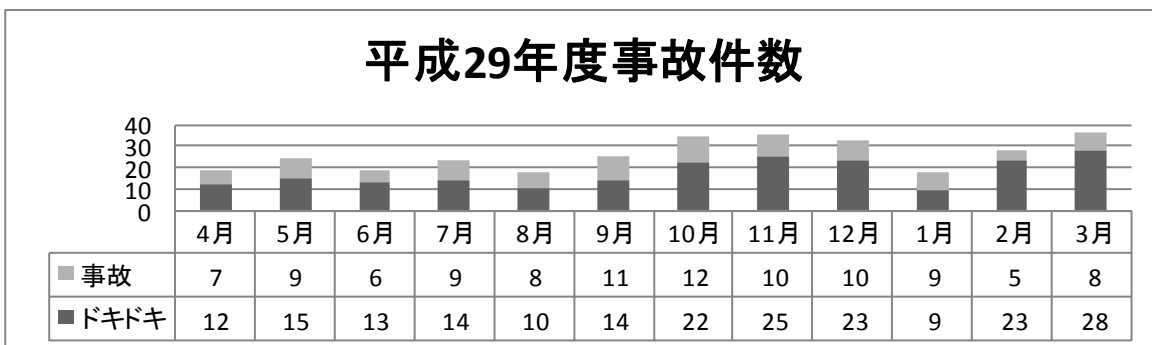
### 1.3. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

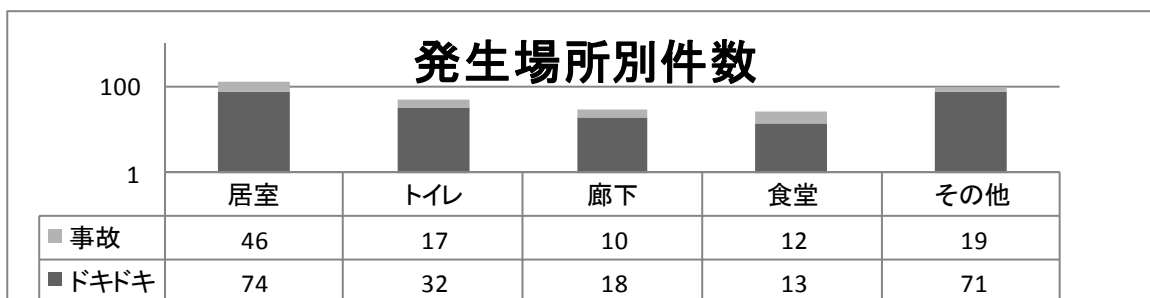
#### 年度別報告件数

報告件数	平成29年度			平成28年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	312件	104件	208件		324件	134件	190件

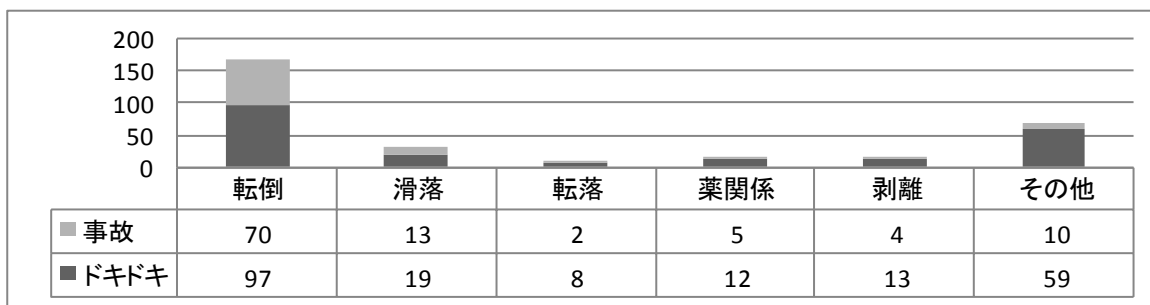
#### ①事故件数



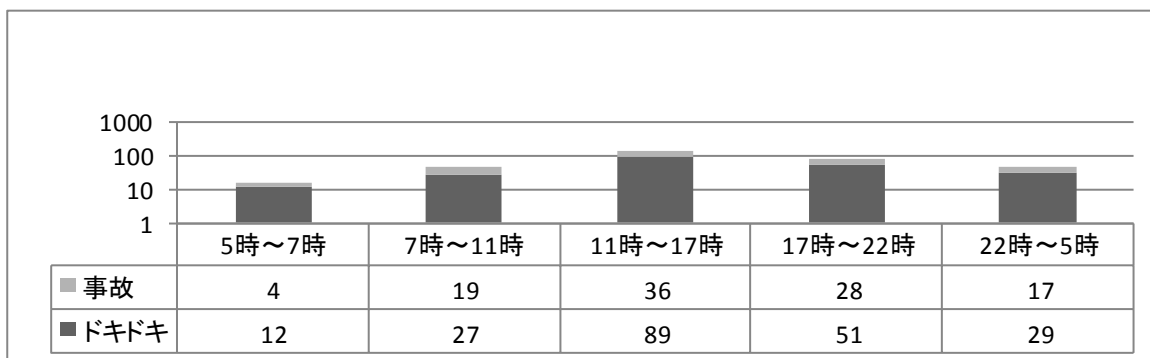
②発生場所別件数



③発生内容別件数



④時間帯別件数



⑤まとめ

ドキドキ件数が増加し、事故件数が減少したことについては遠藤メソッドやKYT法の効果が少しではあるが見られるようになったと考える。また、業務内容の見直しや勤務時間の変更など、これまでと違った取り組みを行ったことも数字に表れている。しかし、人的ミスによる事故も多く発生してしまっている。「知らなかった」「分からなかった」など情報の共有ができていなかったことが原因になった事故も依然発生している。3年目に入る遠藤メソッドを今まで以上に充実させ、また、PDCAサイクルを活用していくことにより人的ミス、職員が要因となる事故の減少を目指したい。

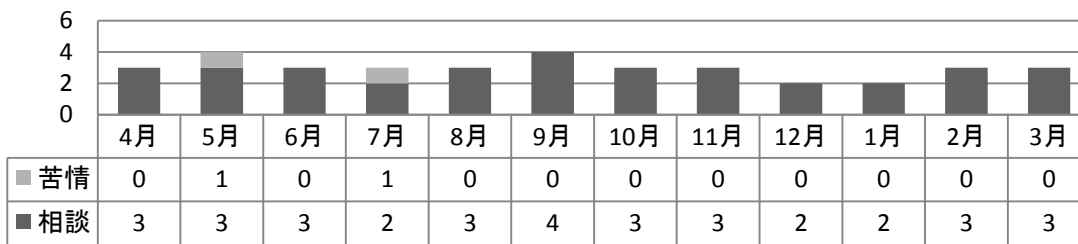
1 4. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

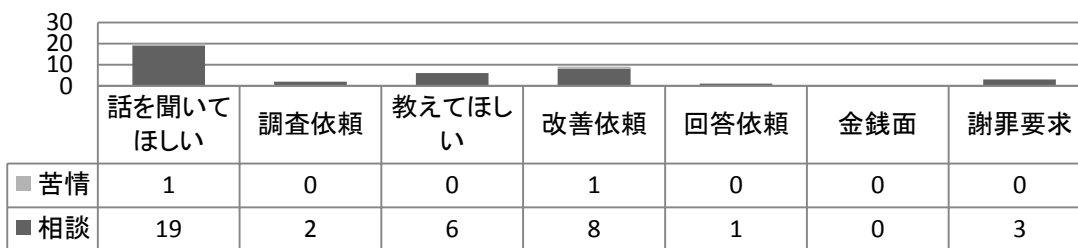
報告件数

平成29年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	36件	2件	34件		64件	4件	60件

## 報告件数



## 主な内容



### まとめ

ゲスト同士のトラブルでは、相談員・ケアマネが双方の思いを傾聴し、間に入って話し合いの場を設けた。また、食事席・居室の変更など行い、早期に対応することでゲストに納得していただくことができた。認知症などにより、物忘れ・被害妄想・思い違いなど対応に困ることも多々あるが、一緒に探す、落ち着かれるまで話を傾聴するということを繰り返した。業務の慌ただしい時に、十分な対応が出来ないことに関しては、その都度職員間で話し合い、改善に努めた。不適切ケアチェック・接遇研修・振り返りシートなどを使用し取り組んだ。常に意識しながらゲストに対応することは難しいが、今後も職員の意識を高めるためにも継続していくこと、また、決まり事を守る、情報を全員が共有することで統一されたサービスの提供ができるように周知徹底させていきたい。

### 15. 《総括》

年度目標である遠藤メソッド推進に関しては、予定通りの達成は見られた。ほぼ全職員が介護基準標準書を作成するまでに至ったが、数が限られたこともあり、繰り返し作成していく必要がある。決めたことを徹底させることは、まだまだ不十分で、センサー忘れなどにより、事故を未然に防げなかったことも反省点の一つである。情報の共有に関しては、報連相、3日間の申し送り、記録の仕方など、日々の業務の中で取り入れてきた。常に情報の共有を伝えてきたことで職員の意識は高くなり、一定の成果は見られた。しかし、業務内容だけではなく、介護の知識や技術、緊急時の対応など介護士としての共有すべきことに関しては、未熟さを感じる。新人が多い現状ではあるが、介護福祉士も今年度3名増やし、あと2名の達成で全員が資格を持つことになる。養護の特性から知識・技術において経験することは少なかったこともあるが、特定で52名のゲストが介護保険を利用し看取りのゲストも多くなった。知識・技術だけでなく、適応能力も学んでいく必要もある。次年度は、職員の補充を進めると同時に、一年ずつを目安に弥勒園で研修ができるようにしていきたい。